

\*\*\*\*\*

## 愛しき若者言葉

富谷 玲子

「最近の言葉は乱れている」という批判をしばしば耳にする。発言者は年長者であり、自分より若い人たちが使う言葉、特に大学生や高校生の世代が使う言葉を非難して云うケースが圧倒的に多い。しかし、日進月歩で通信技術が進化し、コミュニケーション・ツールも多様化するに従って、新しい媒体には新しい名が与えられ、新しい動作には新しい動詞が与えられるのは必然の帰結である。さらに、通信ツールに字数制限が加わるならば、少しでも短くしかも多くのニュアンスを伝えることのできる言葉が自然発生するのは当然である。また、文化が成熟し、ほんの少しの差異に意味を見出す若者の間では、それぞれの持つ微妙なニュアンスを表現すべく様々な新語が生みだされる。そして、文化間の激しい生き残り競争に打ち勝った語は大勢の使用者を獲得しおそらく百年後には辞書の見出し語を飾ることになるだろう。一方、惨敗した語は短期間で消えていくのである。

今年も、授業を通じて、おしゃべりを通じて、またツイッターやフェイスブックを通じて学生からたくさんの素敵若者言葉を教えてもらうことができた。言語には、理解言語と使用言語がある。使用言語、つまり自分自身で使いこなすことが出来る言葉より、理解言語の方がはるかに多いのが普通である。毎日の新聞やテレビの報道を見てもよい。これまで想定外だった事象が生じると、新語が生まれる。その多くは視聴者にとって理解できればよいのであって、使用する必要はほとんどない。若者言葉も同じで、若者同志が連帯感を確かめ合うために使っているところに、気持ちばかり若い教員が割り込んで無理に若者言葉を使おうなどしたら、学生たちは礼儀正しく気を配りながらも、心の中では失笑するに違いない。

次の若者言葉は全国的に使われているように思うが、どんな意味だろうか。

「どや顔」「ディする」「バイトなう(ナウ)」「スタバる」「枝る／枝野る」「与謝野る」「乙」「鉄板」「ネトゲ」「森ガール」

少々解説(翻訳?)を付すと、順に、「どや顔」=「『どうだ!すごいだろう』という自慢顔を臆面もなくする」、「ディする」=「ディスリペクトする／(軽蔑する／中傷誹謗する)」、「バイトなう」=「今、バイトしているところだよ」、「スタバる」=「スターバックスにいる／行く」、「枝野る」=「寝ていない(3月11日以降の枝野氏の疲労・不眠を押してのテレビ会見を若者は大変尊敬し、ustreamでの各局のテレビ放送には応援の書き込みが途絶えなかった。現在は「枝野氏のごとく自分も寝ていない」の意で用いている)」、「与謝野る」=「髪が乱れる／風によって髪が乱される」、「乙」=「お疲れ様!」、「鉄板」=「手堅い／(鉄板のように硬いところから)絶対に大丈夫」、「ネトゲ」=「ネットゲーム」、「森ガール」=「『森から出てきた女の子』のように、ゆるふわのファッション／あるいはそのファッションを好む若い女性」となる。

これらの語の発生年を特定することは一部を除きかなり難しい。「最近の若者は言葉が乱れている上、政治にも関心がない」などと嘆く有識者も多いが、ところがどっこい、学生たちは政治家の発言、世の中の出来事を実によく観察している。ただ、テレビや新聞という媒体を彼らは既に捨て、コンピュータで得られる世界規模の情報を交換し合っているのである。そういった世界規模の視点から見た日本の若者の評価として、枝野氏は動詞に昇格した。若者からこれほどの評価を集めた最近の政治家を、今のところ私は知らない。

「ディする」「なう」は英語の知識を前提とした語構成だし、「スタバる」「枝野る」「与謝野る」

